

1996.4.25

契丹大字〈蕭袍魯墓誌〉再読

(劉鳳翥先生に捧ぐ)

豊田五郎

一

陳述先生編《全遼文》1982年中車書房237頁に〈蕭裕魯墓誌銘〉(大安六年)があるが、その漢文には訛誤字があり、校正資料として劉鳳翥教授の《〈全遼文〉中部分碑刻校勘》が〈黒竜江文物叢刊〉1983年2月号に掲載され、閻万章先生の《契丹文〈蕭袍魯墓誌銘〉考釈》

が〈民族語文〉1988年第3期に発表された。

その主要な修正点は次の通りである：

	〈全遼文〉	劉鳳翥	閻万章	本文
237頁 16、19行	蕭裕魯	蕭袍魯	蕭袍魯	蕭袍魯
20行	曾主父	曾王父	- - -	曾王父
21行	主父	王父	- - -	王父
238頁 7行	松尚南山州	松南州	- - -	(上京道) 松山州

漢文墓誌によると、蕭袍魯は重熙中①西夏征伐に参加し、凱旋後②本府尚史→③左金吾衛詳穩→④松山州刺史→⑤歸州觀察使→⑥靜

江軍節度使→⑦匡義(饒州)・⑧彰聖(信州)
・⑨開遠(雲内州)・⑩臨海(錦州)等軍節
度使→⑪湯河女直詳穩→⑫太子太傅→⑬北宰
相を歴任し、大安五年正月享年七十二で薨じ
た。

閻論文はこの漢文蕭袍魯墓誌の誌蓋に刻ま
れた契丹大字墓誌文15行の全文を抄寫して、
第10行の守太子太傅を"守太子太傅"と解説
したが、これで傅の音がfuとわかつたのであ
る。

その後数年<蕭袍魯墓誌銘>について新た
な研究はなかつた。

二

1996年3月26日付の劉鳳翥教授からの便り
が3月末に届いたが、それには<民族語文>
の本年第4期は創刊百期なので特約して<契
丹大字中若干官名地名之考釈>なる論文を執
筆したとあり、その要旨を教えていただいた。

先ず蕭孝忠墓誌1-2行に次の語句がある：

太泉脊 牽非 凡 兇 兇 允

太師之祖父烈虎衛 内

又同第18行に：

共又々 丹光天光从牙步仇 節果

乾寧州之首長靜江軍(節)度使

劉教授はこれについて：“小字解読の成果と貴方の赤峰会議発表の論文〔即ち豊田〈契丹大字解読の手がかり〉〕の成果を利用して‘奴’（允）から‘内’、‘衛内’、‘雲内’に到り、‘家’（牙）から‘江’、‘靜江軍’に到達しました”という。

北大王基誌第9行に次の語句がある：

走皮天太后昇

承天太后之

これを解説すると、契丹大字には契丹小字や女真字と同称漢字の反切に類した熟語があり、曾て走皮ほる文字が発見されて以来儀天太后の‘儀’（ng+i）と解釈されて来た。（劉鳳翥・馬俊山《契丹大字〈北大王基誌〉考釈》〈文物〉1983年第9期掲載）。

劉鳳翥教授は今回この解釈を改めて承天太

右の'承'(支 ċi + 皮 ing) とし皮を ing と読んだのである。そこで先を zi と読めば (zi + ing) は'靜' zing で、牙は既に gia と判明しているの
 で(牙 gia + 半 ang) は'江' giang と読みうる。
 '内' も(化 nu + 允 ui) で nui と読んだのである。

三

又劉教授は次の如く述べている：

"私はさきに昇を'副'と誤釈しましたが、
 実はそれは所有格語尾でありました。例えば
 契丹小字の必或いは兩と同じです。契丹大字
 の'州'△は従つて女真字△(ju)と比較出来ま
 す。さきに誤つて'儀天太后'と釈したのはまさ
 に'承天太后'と修正すべきです。私は契丹小字
 '□之号封'の格式により契丹大字の相同じい格
 式をこう決定しました：

北大王第16行 景将脊午 兹州

使相之号 封

萧令公第11行 必 箭 玃 簪

劉教授は更に一步進んで契丹大字〈故太師
 銘石記〉第40行の下記の句をも次の如く解読

したのである：

元 岡 屋 五 太 女 斐 厓 太 允
 金 紫 崇 祿 大 夫 檢 校 太 尉
 gin zī cǔng lu dai fu gen jiao tai ui

四

劉教授は〈蕭袍魯墓誌銘〉に因しては次の如く述べる：

第2行の 奄=非 = 奄奄非 で曾祖父のことである（奄非は祖父）。

光从牙步 仇 務果 益州面之 (第8行)
 静 江 军(節) 度使 封

序 公 昇 光天 史允允 公 昇 光天 (第9行)
 信 州 之 首 長 雲 内 州 之 長 官

守 太 子 太 女 昇 午 益州面之 (第10,11行)
 守 太 子 太 傅 之 号 封

果持奄午 己丑非 益州面之
 使相之号 追 封

以上は劉教授の個人的私信とはいえ内容は驚嘆すべき解説の連続であり、この論文が世に出るのを楽しみに待ちたい。

五

私も契丹小字 𠵹 と契丹大字 𠵹 のつながりに
 ついて関心があり、未発表乍ら袍魯墓誌の第
 2-3行について劉教授同称 𠵹=𠵹 を曾祖父、𠵹𠵹
 を祖父、𠵹 を父と考えこう読んでいた：

(2) 𠵹=𠵹 ----- 𠵹𠵹 或 𠵹𠵹 ----- 𠵹-----
 曾祖父 祖父解里郎君 父

仁(3) 𠵹----- 𠵹 𠵹𠵹
 任 奥幹郎君

この内 或(解里)は北大王第2行に 或(諧里)
 があり、耶律習涅第7-8行に 或太尉(解里太尉)が
 ある。𠵹(父)は北大王第3行に 𠵹𠵹𠵹𠵹 (父
 駙馬郎君)がある。しかし蕭孝忠第1行の 𠵹𠵹
 (祖父)と第2行 𠵹𠵹(大父)との関係が不明なの
 でまだ公表はしなかった。

今劉教授の解説を検討するため、契丹大
 小字対照表を作成すると次の如くである。

※(雲に当る契丹小字は未発見に付他例より
 推定したもの)

私はこの解説は表の通り皆妥当と考える。

	契丹大字	音	契丹小字	女真字
(1) 太師	太 杲	tai ^v si	空 𠂇	
(2) 祖父	峯 𠂇	()	主 𠂇	
(3) 衛(兄)	𠂇	ya	𠂇	克土 ahu
(4) 内	𠂇 允	nu-ui	公 𠂇	
(5) 州	𠂇	ě-ü	𠂇 𠂇	𠂇 ju
(6) 靜	𠂇 及	zi-ing	𠂇 同	
(7) 江	牙 𠂇	gia-ang	𠂇 𠂇	
(8) 軍	𠂇	giin	𠂇 𠂇	
(9) 使相	杲 將	si ^v siang	𠂇 𠂇	
(10) 金	𠂇	gim	𠂇 𠂇	
(11) 紫	𠂇	zi	𠂇 𠂇	
(12) 大夫(太傅)	太 太	tai fu	𠂇 𠂇 (空 𠂇)	
(13) 太尉	太 允	tai ui	空 𠂇	
(14) 内	𠂇 允 允	ün nu-ui	𠂇 𠂇 [*] 公 𠂇	

六

再び蕭袍魯墓誌を振返つて見ると次の標文一文がある：

序元吾突峇外峇早𠂇峇𠂇同杲𠂇杏𠂇真𠂇司因𠂇 (7-8行)

劉教授によると元は(10)'金'gimで□金吾□之

□□となる。漢文墓誌と対照すると左金吾詳
穩とあり③左金吾衛詳穩のことである。そこで
これを左金吾衛之詳穩と読むこととする。

岡は(11)'紫' zii であり、類音の字に'刺' cii が
あり、尸坐△昇岡果 を漢文墓誌と対照すると、

④松山州之刺史と読める。次の杏△昇真司因凡

□州之□□□□ は漢文墓誌と対照すると⑤歸
州觀察使(東京道)である。その初字杏は'歸'
gui と読むらしく漢字杏の女真音'歸法刺' gui
fala と比較されたい。

残りの四字真司因凡是第4行の胤之因凡と
比べることが出来る。後の胤について、私は
習湜墓誌第6行の胤工即ち觀音の'觀'に当てた。
真司も'觀'(go+n)とすると因凡是觀察と読む
ことが出来る。第8行後半にすでに劉教授が
解説した⑥靜江軍節度使がある。ただし私は
苻果を度使ではなく節使と読みたい。苻果は
耶律延寧第13行では崑果、孝忠第18行で苻果
とあり節 zie 字に近い。節度使觀察使を略し
て'節察'という例がある。

第9-10行は次の如く四ヶの光天(首長)を列べているが、漢文墓誌と対比するとこうなる：

- | | | |
|-------------------|----------|-----|
| ⑦ 朮州 <u>雷峇</u> 光天 | 匡義 (饒州) | 上京道 |
| ⑧ 序公昇光天 | 彰聖 (信州) | 東京道 |
| ⑨ 安化允公昇光天 | 開遠 (雲内州) | 西京道 |
| ⑩ 丰 <u>雷峇</u> 光天 | 臨海 (錦州) | 中京道 |

この内⑧については劉教授がすでに信州之首長、又⑨については雲内州之長官と解説している。そうすると朮州雷を饒州、丰を錦

州と推測することが出来るがその読音は不明である。⑪湯河女直詳穩と⑬北宰相は契丹文では不明であるが⑫太子太傅は既に閻万章論文で解説されている。

私は今回の劉教授の研究の成果を充分に採用し、又それに啓発された新たな連想をも加えて〈蕭袍魯墓誌銘〉を附圖の如く釈読する。何とぞご指正賜りたい。(なおこの契丹大字原図は閻万章先生抄寫のものを理解の便の爲算の如き合字は出来るだけ公昇と分解した)。

契丹大字〈蕭袍魯墓誌銘〉

- (1) 𠂇斗从己脊芥禾斗再突求之允女州充百氷之寺寺求
墓誌 = 銘又
- (2) 奔 = 泚亓亞百死再率奔泚或昆岳空充云泚允之持公仁在
曾祖父 祖父解里郎君
- (3) 仗光岑采无岳屎晃嵐冬逆虎泚乃工天工突兜己日位
真幹郎君
- (4) 女毛吉充云安飛为晃吉为旦外脊元胤之因允泚外采天
觀察使
- (5) 刈佩母晃押允 再率丑十受寺仁仗光岑去来手此之禿州
歲十九年 任
- (6) 工芮脊杏工馬 血去来来无刈晃亞百舍发巾允兄芝箇州面之
封
- (7) 泚工之臣天采天刈佩序元吾突脊外笨早辰崇昇岡果杏个昇真觀
左金吾衛之(詳穩?)松山州之刺史歸州之
- (8) 司因允泚泚刈方真所寺晃为位字求之光从牙考仗務果箇州
觀察使 靜江軍節使 封
- (9) 面之求州雷脊光天序个昇光天 支化允个昇光天幸雷脊
(饒州)之首長 信州之首長 雲南州之首長(錦州)之
- (10) 光天 南厨厨尸住将昇母晃位字求之守太子太安昇午
首長 守太子太傅之号
- (11) 箇州面之持昇母晃五仅州公允泚刈丑於受寺北此安昇
封 歲六十九年
- (12) 再率胤之 再率晃与瓦泚脊住位字求之 果持脊
使相之
- (13) 午己岳泚州面之 丑冬 寺真公劣至外百云求岳州之
号 追 封 歲七十二年
- (14) 丑冬三寺柙芥奈犀奈倉之允女州充云
歲七十三年 葬
- (15) 天气酒 庚米三月十受日
大守 六年三月十九日

(註) 劉教授が序人を信州と読むについては《遼史》38 地理志8に“信州彰聖軍下節度本越喜古城渤海置懷遠府今廢、聖宗以地鄰高麗開泰初置州以所俘漢民實之、兵事屬黃竜府都部署司”云々とある。

また先天(長官、首長)の読み音については契丹小字の太守首長に當る 𠵹 NT (noyanの變形 nait) と考えられる(西田竜雄<アジアの未解説文字>1982年 P.182 参照)。

序と果字について

私はさきに赤峰発表論文<契丹大字解説の手がかり> P.5.14 に於て序字を‘習’に當て 例えは序面之无缶を習尼里郎君としました。今度 劉教授が解説された通り 序人が信州で“あれは”序には習 si と信 sin の二通りの読み方があるわけです

信と同じく辛字に sin の発音があります
又時は師使史同称 si 音で大字は果です

蕭孝忠漢文墓誌第12行と契丹大字墓誌の
第11-12行を対比すると序杲を辛時と読む
ことが出来ます。

大字(11)五兵罕非十二戌年月廿五死炭日(12)序杲寺
五己巳年十二丁丑月廿五辛酉日 辛時ニ

漢文(12)大安五年歲次己巳十二月一日丁酉朔
二十五日辛酉日辛時葬訖

3. 又習寧墓誌漢文第4行にある

于越王 諱習寧

は大字第2行に対比すると

序峇伏平在公太王

習寧□□于越大王 と読めます

北大王墓誌第1行 と 第2行

突朕峇太王

突朕峇万工太王

Kidai-intai ong

Kidai-in Vansintai ong

契丹之大王

契丹之万辛大王

により峇を所有格語尾之inと読めばこの序峇

と習寧 si-ning はよく似ており

sin-in

《遼史》蕭排押傳の蕭排押字韓隱(han-in)と、

《秦晋国妃墓誌銘》の諱曷寧(ha-ning)と比

較出来ます。

以上